

本市自慢の公共建築物 世界的に評価の高い建築家たちの

作品があふれるまち

昨年7月26日に開催された「とわだ子ども議会」で「十和田市の自慢の建物をPRしてもっと住民が増えるような十和田市にしてほしい」という提案がありました。この子ども議会における提案を踏まえ、今号では進学や就職で本市を旅立つ人、正月で帰省する人や成人式で里帰りしてくる新成人にも本市の誇りとして思ってもらえるよう、本市自慢の公共建築物を紹介します。

本市には、世界的に評価の高い建築家が設計した公共建築物が3つあります。人口6万都市でこれほどの建物があることは、本市の誇れるべき魅力の一つです。

十和田市教育プラザを設計した^{あんどうただお}安藤忠雄氏と十和田市現代美術館を設計した^{にしざりゆうえ}西沢立衛氏は、国際的な建築賞で「建築界のノーベル賞」と称されることもある「プリツカー賞」を受賞しています。

市民交流プラザ「タワーレ」を設計した^{くまけんご}隈研吾氏は、2020年東京オリンピックの主会場となる「新国立競技場」の設計をしています。

また、3氏は共に国内で最も権威のある建築の賞と称されることもある「日本建築学会賞（作品）」を受賞しています。

現在、国内はもとより海外からも、これらの公共建築物を見学する人たちが訪れています。

市民が活用する公共施設としての一面だけではなく、市の観光スポットとして、また、まちの美観を高める建築物として本市の可能性を広げています。



西沢立衛氏設計

十和田市現代美術館

個々の展示室が、「アートのための家」というコンセプトで設計されました。アートと建築が融合し合い街に連続していくArtsTowada（野外芸術文化ゾーン）の中心となる施設です。

竣工：2008年3月



安藤忠雄氏設計

十和田市教育プラザ

図書館と教育研修センターの複合施設。「あるものを活かしてないものをつくる」をコンセプトに、官庁街通りの桜並木や2本の桜の古木の既存樹、十和田に根付いた文化や風土に着目して設計されました。

竣工：2015年9月



隈研吾氏設計

市民交流プラザ「タワーレ」

「みちと広場を融合させたにぎわいの広場」がコンセプトの市民活動の拠点施設。市民交流の促進とにぎわい創出の拠点として多くの市民が利用しています。

竣工：2014年10月

